

外組八十七組之内

三代集香
續古今香
歌仙香
探題香
十友香

執古今香
歌集香
歸谷香
昏寤覺香
習五色香

片五

多9
1338
40



9多ヲ
1338
40



外組香八十七組之内五

三代集香

新古今香

續古今香

歌年香

歌仙香

贈春香

探題香

替麻寛香

十友香

替五色香



十支香

替止之香

秋鹿香

替藤夏香

燻山香

替合香

麝古今香

燻羊香

三乃集香

替古今香

伏賜香八十六賦之内十五

三代集香

香三種

一と真集

二と後撰集

三と拾遺集

右同

右試香はうへ出香六包打入三色の焼出香
減令へ名乗紙を書付書き令へ又つる
る共すうあるせん左の集の香のほの歌を
書付しき令へ又上り字斗書付しき令へ
出香と先子聞か終るまで海をさすむ

南の川とたの歌と書付しき一行り
書付し歌左のてり

三代集秀逸の歌

古今集

花の色はうつらうつら
あはれをさすむ

後撰集

片々免ふかきとぬらぬの其むし乃
まじりけりおのむらうらうら

拾遺集

春之とてふるをや之牙野の
山の麓にけりけりけり

為江の面平に見合江左の

古今集

後撰集

拾遺集

三代集香記

拾遺 古今 後撰

名

春のつとふるをやの山にけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
つとふるをやの山にけりけり

名

つとふるをやの山にけりけり

入土の月日録世に出香名よ

又出香二種出る時をばとく古今
拾遺古今と出る時皆南の人よ古今の款
一頁拾遺の款一頁と二行書下古今の款
二頁拾遺の款又古今の香一種南の今時と一頁
の今とよあきく今と今と

新古今香

香七種

萬葉集

蛙

淡香

漢有歌子新古今香

成香七種

首

蛙

香一

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

哥
二色保成

混本歌
右回り

首但二色別の香子組也

香子旋以歌
一色保成

右試
出香二色と先始と歌二色

混本歌二色と二色と主成香桂

成香山旋以香の四色と香文二色二

むと始の二色と香文一色と

成香山旋以香の四色と香文二色二

香一色と一枚と歌混本香子

二種一札一枚打魚一各正すり谷米紙
すりすり飛候れのく其有札打魚
扱入性魚一哥混本すり同香と
別香すりすり何と一様公のすりたる
出ると考すり高記の面すり准知あり

今記録沼候の本香すりえ候すり
以家斗すり書付てと一時をすり
よめ今考考知り今すり左のすり

漢書新多候
一
の此はし

新古今香記

蛙
旋
着
候
哥
歌
混
混

三
全

札名

混
蛙
歌
族

三

蛙
族
歌
混

全

月日

出香の各集

かろく之に准き今

秋深おかの毛紙二種おまろくを紙二種別おまろくは湯布多く右二種
かてこれ一枚おまろくおれおまろくおれおまろくおれおれおれおれおれおれおれおれ
おれ
おれ
おれ

續古今香

香五種

花下下
二色法内
一色試

紅葉

右回り

漢香山

右回り

混本歌にて 右回り

旋返歌にて 二色徳成

右試香四種終りて 出香六色 打中七 煙等

多々 二種開きた先なれとよみ 海本香と

とよみ 南りえ合 且ま合 二種より一名子

書り 左のニキ

花紅葉のやみえ 錦の丸

紅葉花のやみえ 遠方の丸

花満香のやみえ 雲井の丸

紅葉満香のやみえ 紅の丸

浅香山の花

雲の花

浅香山の花

其衣の花

浅香山の花

外山の花

浅香山の花

乙女の花

浅香山の花

吉野川の花

浅香山の花

立田川の花

浅香山の花

立田山の花

浅香山の花

吉野山の花

浅香山の花

歌枕の花

浅香山の花

浅香山の花

南香山温泉歌

南香山の丸

日本歌 旋江歌

哥の丸

旋江歌くき

旋江歌の丸

古記録の西より可き今長江城より伝

開きありし名目ハ記録を由り伝あり

名目合より不為よりた之ハ紅葉温泉歌

のそと温泉歌紅葉とは一回一各目あり

遠有終りて文はありし心片高より不火あり

江派たのやし

紅葉今香

續古今香記

南香山

紅豆

厚本款
族字

札

雲

到田山

歌

全

札

錦

外山

歌

二

今日月日... 出香名集

... 准是...

續古今香記

唐書 蘇頌 本草 蘇頌 蘇頌

一 乳 香 樹 皮 割 取 全 香

一 乳 香 樹 皮 割 取 全 香

上 乳 香 樹 皮 割 取 全 香

香 草 類 香 草 類 香 草 類

香 草 類 香 草 類 香 草 類

香 草 類 香 草 類 香 草 類

香 草 類 香 草 類 香 草 類

香 草 類 香 草 類 香 草 類

右試香終り本香九包お交煙出り各
す終り後一層も浴し持合の香一柱で
出り但何成共古哥の五文字と隣り各
湯出終り先香香り但連中尋合同香
る事終り本香九包お交煙出り各

あり共一包取煙出り本香九包お交煙出り各
年す終り本香九包お交煙出り各
あり本香九包お交煙出り本香九包お交煙出り各
あり本香九包お交煙出り本香九包お交煙出り各
あり本香九包お交煙出り本香九包お交煙出り各
あり本香九包お交煙出り本香九包お交煙出り各
あり本香九包お交煙出り本香九包お交煙出り各
あり本香九包お交煙出り本香九包お交煙出り各

一 記 録 後 紙 へ 本 香 丸 包 々 十 種 香 の 一 種 法
 多 連 中 出 合 の 香 々 名 乘 紙 と 改 右 ず
 の 下 へ 書 付 金 紙 と 赤 香 と 中 南 々 々 三 豆
 撒 々 他 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と
 我 々 と 他 の 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と

と 他 の 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と

赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と

赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と

赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と

赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と

赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と 赤 香 と

歌年香之記

ウチヨクヨクウチヨク
ヨクヨクヨクヨク
ヨクヨクヨクヨク

二二三二二三二二三

名 二二三二二三二二三

名 二二三二二三二二三

名 二二三二二三二二三

名 二二三二二三二二三

四
星一

六月日

出香名乗

二二三二二三二二三

歌年香之九

一
二
三
四
五
六
七
八
九

石 直 通 三 二 一 二 三 四 五 六 七 八 九

一
二
三
四
五
六
七
八
九

四十一

後水尾院勅作

歌仙香

香六種
一
二
三
四
五
六

一
二
三
四
五
六
七
八
九

一
二
三
四
五
六
七
八
九

一
二
三
四
五
六
七
八
九

四

七色は徳目

五

右同

六

一色は徳目

右は徳目三拾五包の内と先一二三四五

二包了らば折紙を焼出さば徳目まで入り

紙は折紙二十一包の香と折紙を五包は

是は各香と文下六包して折紙内

一包は下焼出さば初は何香月の香と

中定りて折紙の五包は折紙書出さば

は是れ一番と同香と折紙あきみ

書付二の香々たる月かあゆむ書歌心
うし大なる有る人合後一種と各々
我をいふ書年一出香の下より歌一書
年一南なる人よ一その書年一と南
五文字斗一なり其外一歌人の名と

書年一又初の十包の内より二種の香不
南なる後の一様なりし南なる点は二
種の南なるを五文字斗一なり
行化の面より一考たのなり

歌心
書年

歌仙香白之記

一 二月のあけ春のまじりの春のぬ
二 春のまじりの春のぬ
三 春のまじりの春のぬ
四 春のまじりの春のぬ
五 春のまじりの春のぬ

歌名

二二三四五 信正遍照 二

名

二二三四五 月あけ春のまじりの春のぬ 全

書字 月日 出香 名 集 不

信正遍照

浅み 糸のうらやまの春の柳

蓮葉のまろまろさのぬの

あつたしおりの水 女良の舟
うれなまよきし人よりの水

在系業平

月やあぬ春のあけの春もあ
らむかきしほめもるのさしこ
ちこそ月をさしこしほそこ
つれも人の志もさしこしほ
ねぬおのさそをさしこしほ
いやさしほさしほさしほ

文屋康秀

吹くん野さの草木のさしこ
あくさささほしほさしほ

草さささほさしほ
さしほさしほさしほ

喜撰法師

我さささほさしほ
さしほさしほさしほ

小野小町

思ひほめさしほ
さしほさしほさしほ

色にんげん くらげのよのよの 世の
人の心のちかきちかき

といわれそよよの草の根をい
たきり水あははるんをよよ

大伴里生

あひそよよのよよのよよの
いそよよのよよのよよの
後山いそよよのよよのよよの
年経のよよのよよのよよの

右歌の内いづれもも 可用 同 五文字の

毎いそよよのよよのよよの

果按は神紀香 彦叔 三色 元よりいそ

二移り多うもいそよよのよよのよよの
つよをいそよよのよよのよよのよよの

あ 一 一 一 一 一
い 二 二 二 二 二
え 三 三 三 三 三
お 四 四 四 四 四
か 五 五 五 五 五
き 六 六 六 六 六
こ 七 七 七 七 七
さ 八 八 八 八 八

中後方の歌いもきとえし、いふ歌は、
あまのうゝこそは、
ついでにつまみちるれ。

い 二二二二二
二二二二二

中 一三三三三
二二二二二

中 二二二二二
二二二二二

ケル、
十

贈香

香教不足

先、
香

香教人、
香

少人、
香

しるしを 直所を主 各の香を文に 後

常の香包は色づく一二三四五と包の角を

一切で試み出さす 各試みしりて 出香は

燭を 試み名乗紙書付 出香 自分の

香に 不南と 不昔人の 香とす 南とす 要

ま 郭と香は 何れも 人の香と 南をら

す ちの半 遠く 又 郭と香は 一種か

あり け如香は 一箇の香と 不残す 入 叔

ふまに 中か ちの 又 一二三の香

の 各持の 香の 紙と 具供 書付

高紀の表より可考したるものなり

香手名を肩書としし同主同格アリトモ不吾同格の格
すも不格不成に格の表を多し
一 香格 三 一 五

贈香香之記

一 五 六 四 二 三
一 五 六 四 二 三

名 一 五 六 四 二 三 金

名 二 五 四 六 一 三 二

香二月日 出香名衆

記録は人名も金も

一二三の頭を
上は一二三二五
二五の頭を
二五の頭を
二五の頭を
二五の頭を

試子合十一札
右の方
左の方

両方
右の方
左の方

右の方
左の方

右の方
左の方

右の方
左の方

右の方
左の方

右の方
左の方

右の方
左の方

遠村煙
孤山月

裏々々二枚
真名二枚
有

探題香之記

香名

香名

文子

香名

香名

名乘

持

緑竹

香名

香名

名乘

花

香名

香名

名乘

彈琴

香名

香名

名乘

香四時月日

出香名乘

まろく、平、名、人、手、今

山香八豆板清之及

探根香之記

九香（紅）

古之香（紅）

深竹（紅） 持（紅）

龍峯（紅） 九勝（紅） 谷採（紅）

香四種 香日（紅） 香見（紅） 香（紅）

香四種

香四種

香四種

香四種

香四種

四と入るて 右回り

右試始りて 出香三包つ子出二包有と春
其秋冬三包つて 始い分を右三包つて四始
と始い分を 右三包一始い分て 始三包つ
九包の内へ 右入れ分三包の内と二包除て

残の一包と始の九包へ加て 十包して 始
其春夏秋冬の内何れも 一包出ると 各
春一始い分て 始一始い分て 始
其夏一始い分て 始一始い分て 始
秋一始い分て 始一始い分て 始

冬一様あり

千巻

尤名乗成り夫石回種も試有るれ
もよる年一れの時と一二三巻を抄記
しつるを所と春夏秋冬鳥名文字の記
年一又、殆ど小四尺の巻何巻も巻

あはれにすれもふすのほろもそい
成り年春の巻も出巻の下に歌一そ
有年一回季回鳥の歌たのこ

鳥の音り

おきあしきまらきまつる
年の国りしきもの

Footnote made by
部々

今又お毎々
人又お毎々

并序

今又お毎々
人又お毎々

今又お毎々
人又お毎々

今又お毎々
人又お毎々

高紀の面々

高紀の面々

替々

替々

名 其々

名

勢冬々秋秋春春秋春人

二

月日

出音名乗

記録光下准も年

春の外三季ハ二種ハ三種了らるる事

一節ハ了りてわらす

出之そそ秋夏も秋秋

中秋夏夏秋も秋夏夏

十友香

宋の曹端伯の十友といふ十友の事

桂僊友 菊正友 梅清友 荷淨友 海棠

名友 茶森 韻友 茉莉 雅友 瑞香 殊友

百葉 龍友 蓬蒿 高標 友 同 亭

香 藝 心 秋 秋 春 介 秋 春 人

月 日 士 香 名 乘

元 派 七 年

Faint red and black ink bleed-through or ghosting of text from the reverse side of the page.

十友香

宋の曾端伯の十花と以十友と多し所謂

桂僊友 菊佳友 梅清友 荷淨友 海棠

名友 荼蘼韻友 茉莉雅友 瑞香殊友

芍藥艷友 蒼苔蒿 猗友 洞石

紙香の多き茶葉 茶葉 紙香の多き茶葉

香六種 紙香 茶葉 紙香 茶葉

紙香の多き茶葉 紙香の多き茶葉

茶の香の多き茶葉 右同の

外に 一色紙葉

紙香の多き茶葉 右同の

紙香の多き茶葉 右同の

紙香の多き茶葉 右同の

右最中一名茶紙の端を折る内一二と

茶の香の多き茶葉 紙香の多き茶葉

一の字と取らる人其一の香と我香と心得
二の字下取らる人其二の香と我香と心得
すなり 但十人より付其一の字五二の字
五つあるを少く取らる振分なり
扱試始なり 一の香六包扱文内なり

四色は是より別香の罨と扱文始なり
我香は何番目より有る字に紙に
扱文 一の香二色有るは文内なり
火煙物より先より其二の香は
名乗紙に書付せらる 一の文字ハ十花

の類にありて一香をの一人の類を雨とて
桂とて二の類とありて人の茶と麻とて
其次の二の類とて次の二の類とて外
先は類とて一類とて香とて人の桂とて
僊友とて香とて人の僊友とて香とて余は僊友

故に追分と本香と先子聞と香と海と
ありて高の其は桂菊梅と追分の
香はとて始の一の香とて持りて其追分の
肉とて其は人の一人とて韻友とて香
の一人の類友とて類とて人の一人とて

結ねえ又韻友と返りまうり何をも不為時

と書ふ及志の文字を其命を二人と

一音僂友二音佳友と成るに思ふ

江の面を往く想知有るなりたのこも

十友香云也

一別
二別
三別
四別
二

一別
二別
三別
四別
二

名一 一桂五 五七木僂友 二

名二 二桂五 八 僂友 全

名二 三葉五 八 佳友 三

名一 一菊七 八 菊 一

五和山月日 十 杖 出香 名 乘

記録乞 十准多身 殊非入 亦多身 殊

未得中 以改其久 又于律 其多身 亦多身

一者 廣其 廣其 廣其 廣其 廣其 廣其

此為 廣其 廣其 廣其 廣其 廣其 廣其

廣其 廣其 廣其 廣其 廣其 廣其 廣其

替 五色 香 妙 有 香 妙 有 香

香 五種 妙 有 香 妙 有 香 妙 有 香

妙 有 香 妙 有 香 妙 有 香 妙 有 香

妙 有 香 妙 有 香 妙 有 香 妙 有 香

妙 有 香 妙 有 香 妙 有 香 妙 有 香

元禄七 白くす 殊々 右同り

元禄八 黒くす 殊々 右同り

右 試香 五種 殊々 先始 且 誰の 何と

寺の 寺に 是 寺に 各 衆の下に 五色の 歌の

上の 牛に 寺 供下 是 扱本 香 五色 打文

短 寺に 寺に 殊々 我 知え 寺に 定る 香

何 短 目と 寺に 各 衆 寺に 寺に 南れ 寺

元 禄 下 句 寺 寺に 寺に 不 高 人 下 之 句

書 半 白 闕 寺 寺に 又 寺 揮 題

寺 寺に 寺に 寺に 寺に 寺に 寺に 寺に 寺に

青

川牛のこまのたねを
あつちい

黄

枝をん岸の山吹
はなを

赤

すくすく日影
を

白

きよきよの
はなを

黒

烏ねまの
まを

高紀の西の嶺を有る 大の

替日 五色 香 里

赤黄 青 白 里

名 川舟のそふくの毛の

名 杖のそふくの毛の

名 竹のそふくの毛の

月日

土香 名乗

まろくそ 准る

吾記之响耳。頃亦有餘。大...

音黃

替五色香記

世...

台 自... 色... 來

系... 來

